

ウェブベース汎用写真閲覧システムの構築と今後の展開

梅川 通久¹, 荒木 茂²

¹ 京都大学 地域研究統合情報センター, ² 京都大学 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

連絡先: <umekawa@cias.kyoto-u.ac.jp>

- (1) **動機:** 我々はこれまで「地域研究画像データベース」(PDIAS)を構築・公開してきた。PDIASは、アジア・アフリカ地域を対象とする地域研究者によって撮影された、人・自然・文化などに関する写真を集成し、標高や地質など地理情報の主題地図上にプロットされた撮影地点を示す点をクリックすることによりそれらの写真を閲覧する為のツールである。この PDIAS の基幹部分をアジア・アフリカ地域に限定している情報から切り離して汎用化し、オープンな『京大式』地点情報・入力/閲覧ツールとして公開、一般に利用してもらうことが本研究の目的である。様々な種類・スケールの主題地図を利用者各自が用意することにより、PDIASと同様のインタフェースを持つそれぞれ独自の写真データベースとして機能することをその狙いとしている。
- (2) **アプローチ:** PDIAS の構築過程で作成したシステムを汎用化することで、技術的な面での省力化を図りながら、本システムの開発を進めている。現時点では基本部分の再構築が終了し、内部関係者による試験的利用を開始している。ユーザは、Perl言語によるCGIプログラムの実行が可能なウェブサイト環境を持っていれば、所定のディレクトリにプログラムやデータを配置し、設定を適切に書き換えるだけでツールの機能を利用することができる。
- (3) **意義:** このプロジェクトでは、地理情報システムを利用した写真データベースを、対価を支払うことなくユーザが自由に利用できることを目指している。本システムはGISとしての複雑な機能は有していないがその分簡便な管理が可能である。そういったコンセプトのシステムを広く利用してもらうことにより、GISを利用した写真データベースなどが広く認知され、今後の発展に資することが期待される。
- (4) **特徴:**
- 単純なテキストや画像データのみを取り扱う為、動作が軽快である。
 - 写真が別窓で表示され、背景の主題地図を自由に変更しながら写真を閲覧することができる。
 - 地点にもとづいた写真と情報にアクセスできるばかりでなく、文献、映像、音声など外部の地点情報へのアクセスが3つまで設定可能である。
 - 動作設定を単純なテキストファイルに記述して行う為、管理の為の環境を選ばない。
- (5) **その他:** 本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)『『仮想地球空間』の創出に基づく地域研究統合データベースの作成』(課題番号: 00158734)での研究テーマの土台となった発想を含んでおり、発表ではその点についても触れる。

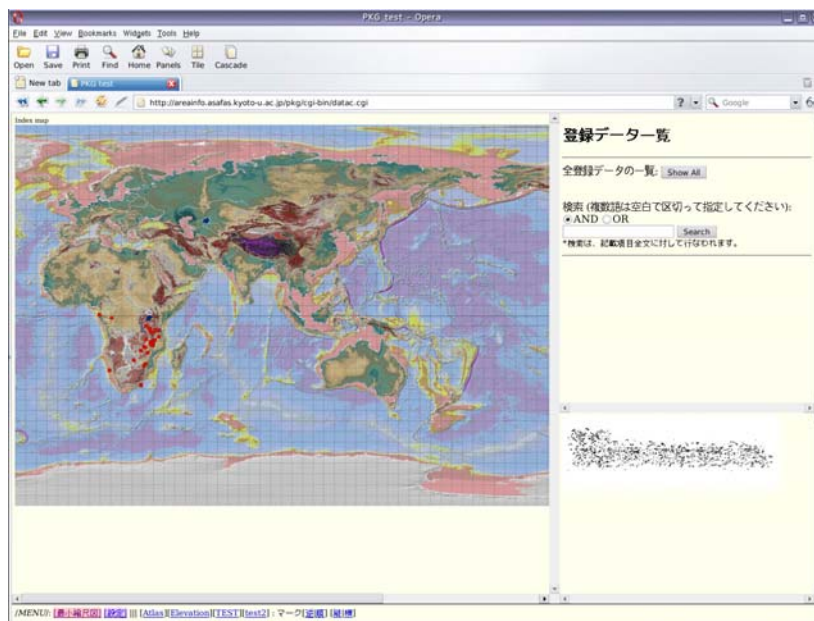


図 1: 開発中のシステムにサンプル地図を載せたインタフェースの例
主題地図は、任意の内容のものを画像データとしてユーザが用意し、座標情報などと共に設定ファイルで指定することにより表示される。写真撮影地を示すプロットやメニュー構成なども同様に、データを元に自動的に構成される。